

JASS10（プレキャスト鉄筋コンクリート工事）改定にむけて

[資料あり]

9月12日(火) 13:30～17:00 オンライン第A室

司会 陣内浩(東京工芸大学)

副司会 小山明男(明治大学)

記録 松沢晃一(建築研究所)

1.主旨説明 鹿毛忠継(建築研究所)

2.主題解説

①JASS10 改定の経緯

川村敏規(SMC プレコンクリート)

②プレハブ建築協会の取組み

石川伸介(安藤・間)

③最近のプレキャストコンクリート工法に関する活用例と課題

小島正朗(竹中工務店)

④JASS10 改定の基本方針と内容

大野吉昭(ベターリビング)

3.討論

4.まとめ 野口貴文(東京大学)

建築工事標準仕様書「JASS10 式プレキャスト鉄筋コンクリート工事」が制定されたのは、プレキャストコンクリート工法が本格的に我が国へ導入され始めた 1965 年のことである。制定当初は主として中・低層の壁式プレキャスト鉄筋コンクリート造を対象に工事仕様書と部材の製造基準の 2 編構成になっていたが、1991 年の改定でそれらが一本化され、工程順に再構成された。また、プレキャスト工法の発展に伴って、集合住宅等を対象とした中・低層の壁式プレキャスト工法だけでなく鉄骨を用いた高層プレキャスト工法、壁式ラーメンプレキャスト工法、ラーメンプレキャスト工法等が出現し、2003 年にはこれら架構式プレキャスト工法も対象にした改定が行われた。そのため、1991 年には JASS 10 の表題も"壁式"を削除し、「プレキャストコンクリート工事」となり、2003 年には「プレキャスト鉄筋コンクリート工事」となった。また、高層化に伴うコンクリートの高強度化に伴い、普通コンクリートの設計基準強度は 2003 年には 60N/mm、2013 年には 120N/mm の範囲まで拡大された。

2013 年の改定から 10 年以上経過した JASS10 の次回改定では、2022 年改定の建築工事標準仕様書「JASS5 鉄筋コンクリート工事」をはじめとする鉄筋コンクリート造建築物に関する仕様書・規準および指針の制定・改定のみならず、脱・低炭素化や DX 等の社会的要請ならび新材料・新技術の導入などへの対応が求められている。

本パネルディスカッションでは、主題解説として、JASS10 改定の経緯、プレハブ建築協会の取組み、最近のプレキャストコンクリート工法に関する活用例と課題、および JASS 10 改定の基本方針と内容について紹介していただく。討論では、主題解説を受け、様々な社会的要請に対応するプレキャストコンクリート工法の実現、および本工法のさらなる普及・活用を具現化・加速化させるための仕様書の提案などを JASS10 改定の目的として、その内容と対応すべき課題について議論したい。